

2012年8月25日(土) 14:00開演
 岡崎市シビックセンターコンサートホール「コロネット」(愛知県)
 全席自由:一般券 3,000円(当日 3,500円)
 ペア券 4,500円(当日 5,000円)
 学生・会員券 2,000円(当日 2,500円)

カーネギーのアイザックスターンホールで弾いたときのもの

ピアニスト 関本昌平さんからのご便り!!



ピアノ三昧!

大阪市内に生まれ、大阪府豊能町育ちました。家族に音楽家はいないけれど、高校で国語の教師だった父は、たいへん音楽好きでした。4歳上の姉が一人いて、近くのピアノ教室に通っていました。姉の練習を聞いて「ボクもやりたい」と親にせがんだそうです。小2の時、NHK教育テレビ、カツアリスの「ショパンを弾く」をみて、ショパンのワルツ、幻想即興曲、革命のエチュードに「すごい」と衝撃を受けました。

小3の時には、オピッツの「ベートーヴェンを弾く」をみて、夏休みの自由研究では、熱情ソナタ 第1楽章をテープ録音して発表。この頃、1日8時間くらい練習しました。小4の時、最初についていた先生が引越され、稲垣千賀子先生に替わりました。先生にすすめられて、初めてコンクールを受けました。

それまでは、自分では、いろいろと曲を弾いてきたのですが、ひとつの曲について、フレージングとかラインとかイメージとか、いろんなことを要求されました。一つの曲について、そういうステップが果てしなく続く、単にピアノを弾くのではなく、音楽を弾くことに気づかされました。小4から本格的に勉強を始め、このころからほぼ毎年コンクールに参加しました。

今回のプログラムを構成する上での私の思い・・・

誰もが知っている、ベートーヴェンの月光やショパンの英雄ポロネーズ等を演奏させていただきます。その他に、今僕が最も敬愛している作曲家の一人、ブラームスの後期の作品を取り上げました。ブラームスという作曲家について、皆様どのような印象をお持ちでしょうか。

ブラームスの作品を初めて聴く時は、重くて、憂鬱で、ぱっとしないイメージを持たれる方も少なくないと思います。しかし、僕にとって、ブラームスの音楽とは、人の心、精神の最も深いところに浸透していく音楽のように感じます。特に後期作品は極めて個人的な内面告白のような音楽だと思えます。ですので、聴いている方それぞれに、ブラームスの音楽が語っているように思えるでしょう。今回の演奏会をきっかけに、ブラームスっていいなあ! と思ってくれる方が増えると大変嬉しく思います。

2012年夏 CD リリース予定!!
関本昌平 (Pf.)
「ブラームス」



イメージ写真です。

曲目:
 ブラームス
 3つの間奏曲 Op.117
 6つの小品 Op.118
 4つの小品 Op.119
 ピアノ:関本昌平
 Sony Music Direct



ナイディック先生と
 岬さん(注、関本さんの奥様です)

音楽との対面！！

高校から親元を離れて上京、桐朋学園大学付属高校に入学しました。卒業してパリのエコールノルマルに留学中、20歳の夏に第15回ショパン国際ピアノコンクールに参加しました。実は参加する前回の2000年には中学生でしたが、第14回ショパンコンクールを見学にワルシャワへいきました。世界的なコンクールのレベルが知りたい、感じたいと思っていました。その後、第15回ショパンコンクールに参加しようと決めたのは、コンクールの1年前です。選曲は、本当に自分が好きな曲、共感できる曲に絞りました。



ナイディック先生の家での
サンクス・ギビングパーティーの時

本番とは不思議なものであるということ、いつも感じています。一緒の空間を共有することで、日常の練習では得られないインスピレーションが得られるということが多くあります。ですから、コンクール期間中は毎日3時間ほど練習しましたが、自分の演奏のない日は他の参加者の演奏もたくさん聴きました。他の人の演奏を聴くことで、この人はこう感じて弾いているんだなって考えることが出来ます。自分とは違う表現を消化し取り入れて行くことでも、自分の芸術が高まって来ることが実感できます。

コンクールというのは、結果にこだわりすぎるのはよくないと思います。

それまでの過程、勉強、人前で弾く経験や極度の集中の中でしか味わえない雰囲気などを感じることがとても大事だと思います。

それから、普段の練習では、コンクールの曲しかやらないというのはよくないと思います。コンクールの曲を一生懸命勉強しながらも、それ以外にいろんな曲に取り組んで幅を広げるのは大事だと思います。



オーボエのクリスティンの伴奏
コネチカットで演奏したとき

NY 発

現在NYにいます。NYという街は、様々な人種、宗教、文化が共存している都市だと思います。世界の中でも、珍しい都市と言えるでしょう。その中で、皆それぞれ自分の世界観があり、しかし自分と異なるものも、受け入れようという優しさや興味をもっているんだなあと感じます。とても新鮮な気持ちにさせてくれます。また、こちらに来てから、料理をするようになりました。1番の楽しみは、食事の時間を満喫する事ですね。おいしいものを食べると、やはり元気になりますし、また頑張ろうという気持ちになれます。



リンカーンセンター前で

関本さんのもっと詳しい情報は公式サイトよりどうぞ

関本昌平オフィシャルホームページ <http://www.shoheinet.jp/index.html>

PROFILE

関本昌平（ピアノ）せきもと●しょうへい

1985年生まれ。大阪府出身。桐朋女子高等学校音楽科（共学）卒業。エコール・ノルマル音楽院卒業。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースに在籍後、渡米。ピティナ・ピアノコンペティションB級金賞、G級金賞、コンチェルト部門最優秀賞受賞。2003年特級グランプリ及び第1回福田靖子賞受賞。同年第5回浜松国際ピアノコンクールにて第4位入賞。2005年第5回モロッコ国際音楽コンクールで、満場一致で優勝。同年第15回ショパン国際ピアノコンクールにて第4位入賞。2006年青山音楽賞新人賞受賞、第32回日本ショパン協会賞受賞。

これまでにモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、イギリス室内管弦楽団、ザルツブルグ室内管弦楽団、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、センチュリー交響楽団、大阪交響楽団等と共演。N.Y. カーネギーホール（ワイル・リサイタルホール）、スタインウェイホール、コルトーホール（パリ）、ロンドン・カドガンホールほか、国内外でコンサート活動を行う。これまでに、稲垣千賀子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、二宮裕子の各氏に師事。

2012年「ブラームスノ/作品117、118、119」をソニー・ミュージックダイレクトよりリリース予定。現在ニューヨーク在住。

2012年には浜離宮朝日ホールほか各地でリサイタル、2013年にはオライオン弦楽四重奏団（初来日）と日本ツアーが予定されている。